

NISEの研究活動

研究基本計画

特別支援教育のナショナルセンターとして、障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に貢献するために、国として特別支援教育政策上重要性の高い課題に対する研究や教育現場等で求められている喫緊の課題に対応した実際的な研究に取り組んでいます。こうした研究活動を、中長期を展望しつつ、計画的に進めるため、「研究基本計画」を策定しています。

この「研究基本計画」は、国の政策動向等を踏まえ、適宜改訂を行っています。

研究体系

研究は、以下の研究体系に基づき、戦略的かつ組織的に実施します。

研究区分	研究の性格(研究期間)
基幹研究	文部科学省との緊密な連携のもとに行う、国の特別支援教育政策の推進に寄与する研究 その内容等により、以下のとおり区分する。 ・横断的研究：各障害種別を通じて、国の重要な政策課題の推進に対応した研究(原則5年間) ・障害種別研究：各障害種別における喫緊の課題に対応した研究(原則2年間)
地域実践研究	インクルーシブ教育システムの構築に向けて、地域や学校が直面する課題の解決のために地域と協働で実施する研究 メインテーマの下に、数本のサブテーマを設定(原則2年間)
共同研究	NISEが大学や民間などの研究機関等と共同で行う研究
外部資金研究	科学研究費補助金等の外部資金を獲得して行う研究
受託研究	外部からの委託を受けて行う研究

研究の企画立案から実施、評価

各研究の企画立案から実施、評価及び普及までをおおむね次のような過程で行い、研究の企画立案や実施に教育現場のニーズ等を的確に反映するとともに、評価を研究の質的向上に生かしています。

【研究の企画と実施の計画】

研究基本計画やこれまでの研究ニーズ調査結果等を踏まえ、各研究班において研究課題の企画やその検討を行い、研究実施計画書の作成を進めるとともに、並行して、当該研究の概要について都道府県等教育委員会や関係団体等に対し意見照会（研究ニーズ調査）を行います。その意見照会の結果も踏まえ、研究実施計画書について必要に応じて見直しを行います。

【研究の実施及び中間評価】

研究実施計画書に基づき研究活動を実施します。研究期間は基幹研究（横断的研究）については原則5年、それ以外の研究については原則2年を年限とし、研究期間の中間点において、研究の進捗状況等について中間評価（研究所内による内部評価及びNISEが外部有識者に委嘱する評価者による外部評価）を実施します。

【研究成果のまとめと評価】

研究の成果を研究成果報告書にまとめます。また、研究成果報告書等の成果物を基に研究の最終評価として、中間評価と同様、研究所内による内部評価及びNISEが外部有識者に委嘱する評価者による外部評価を実施します。

研究体制

研究活動を組織的に行うために、各年度の研究計画を立案するとともに、進行管理等を行う「研究班」を設けています。研究班は、以下の15の班で構成され、研究課題に応じたチームを構成して研究を推進しています。

平成29年度 研究班一覧

	研究班	班長	副班長
各障害種別を通じて、 国の重要な政策課題に対応する 研究班	インクルーシブ教育システムに関する研究班 (インクルーシブ教育システム班)	原田 公人	金子 健 星 祐子
	特別支援教育における教育課程に関する研究班(教育課程班)	澤田 真弓	笹森 洋樹 江田 良市
障害種別専門分野の 課題に対応する研究班	視覚障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班(視覚班)	金子 健	土井 幸輝
	聴覚障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班(聴覚班)	原田 公人	定岡 孝治
	知的障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班(知的班)	明宮 茂	涌井 恵
	肢体不自由のある子どもの特別支援教育に関する研究班(肢体不自由班)	北川 貴章	生駒 良雄
	病弱・身体虚弱等にある子どもの特別支援教育に関する研究班(病弱班)	新平 鎮博	深草 瑞世
	言語障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班(言語班)	牧野 泰美	久保山茂樹
	自閉症のある子どもの特別支援教育に関する研究班(自閉症班)	柳澤亜希子	村井敬太郎
	発達障害(LD・ADHD・高機能自閉症等)のある子ども 又は情緒障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班(発達・情緒班)	江田 良市	伊藤 由美
インクルーシブ教育システムの 構築に向けて地域や学校が 直面する課題に対応する研究班	重複障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班(重複班)	齊藤由美子	星 祐子
	地域におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する研究班 (地域システム班)	牧野 泰美	涌井 恵
	インクルーシブ教育システムの構築に向けた研修に関する研究班(研修班)	久保山茂樹	伊藤 由美
	交流及び共同学習の推進に関する研究班(交流及び共同学習班)	定岡 孝治	齊藤由美子
	教材教具の活用と評価に関する研究(教材教具班)	新谷 洋介	横尾 俊

基幹研究

平成29年度に実施する基幹研究の概要は以下のとおりです。

平成29年度 研究課題一覧（基幹研究）

研究区分	研究課題名	研究班	研究代表者	研究期間
横断的研究	我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究 －インクルーシブ教育システム構築の評価指標（試案）の作成－	インクルーシブ教育システム班	原田 公人	平成28～32年度
	特別支援教育における教育課程に関する総合的研究 －通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当てて－	教育課程班	澤田 真弓	平成28～32年度
障害種別研究	視覚障害を伴う重複障害の児童生徒等の指導に関する研究 －特別支援学校（視覚障害）における指導を中心に－	視覚班	金子 健	平成29～30年度
	精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的支援・配慮に関する研究	病弱班	深草 瑞世	平成29～30年度
	特別支援学校（知的障害）に在籍する自閉症のある幼児児童生徒の実態の把握と指導に関する研究－目標のつながりを重視した指導の検討－	自閉症班	柳澤亜希子	平成28～29年度
	発達障害等のある生徒の実態に応じた高等学校における通級による指導の在り方に関する研究－導入段階における課題の検討－	発達・情緒班	笹森 洋樹	平成28～29年度

上記の他、障害種別研究につなげることを目的として実施する予備的研究として、「聴覚障害教育におけるセンター的機能の充実に関する調査研究」と「言語障害のある中学生への指導に関する研究」を実施します。



研究協力機関との研究協議会



文部科学省内ラウンジでの研究成果報告会

基幹研究（横断的研究）

我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究 ーインクルーシブ教育システム構築の評価指標（試案）の作成ー

研究班： インクルーシブ教育システム班

研究代表者： 原田 公人

研究分担者： 星 祐子（副代表）、金子 健（副代表）、生駒 良雄、横山 貢一、松井 優子、
土井 幸輝、柳澤 亜希子、滑川 典宏

研究期間： 平成28～32年度

概要：

障害者の権利に関する条約の批准や障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）の施行を踏まえ、インクルーシブ教育システムの構築は国の重要な政策課題であり、第4期中期目標期間においては、各地域や教育現場におけるインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組を着実に進めることに寄与する研究を実施する必要があります。このため、本研究のメインテーマを「我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究」として、5年間の研究を実施します。具体的には、各地域で展開されているインクルーシブ教育システムの構築の成果や課題を可視化する評価指標を作成し、その検証を行うとともに、我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に際して残された課題やその後の展望を示すことにより、今後のインクルーシブ教育システムの構築の進展に寄与します。

なお、平成28～29年度においては、国内外のインクルーシブ教育システム構築の状況、及びその評価の取組に関する実態調査を実施し、インクルーシブ教育システム構築の評価指標（試案）を作成します。

特別支援教育における教育課程に関する総合的研究 ー通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当ててー

研究班： 教育課程班

研究代表者： 澤田 真弓

研究分担者： 笹森 洋樹（副代表）、江田 良市（副代表）、海津 亜希子、北川 貴章、清水 潤、
武富 博文、村井 敬太郎、若林 上総

研究期間： 平成28～32年度

概要：

平成28年12月21日中央教育審議会において、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」答申が取りまとめられ、平成29年3月31日には、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領が告示されました。今後、移行期間を経て平成32年度には、これに基づく教育課程が本格的に実施されます。次期学習指導要領の円滑な実施を支援することは、本研究の重要な役割であり、このため、平成28年度から平成32年度までの5年間のメインテーマを「特別支援教育における教育課程に関する総合的研究」として研究を実施します。

本研究所では、特別支援学校から、特別支援学級、通級による指導における教育課程に関連する研究を行ってきましたが、インクルーシブ教育システム構築の視点から、まず、平成28年度、平成29年度の2年間は、通常の学級に軸を置き、「通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当てて」として取り組みます。その後、平成30年度から平成32年度の3年間で、「新学習指導要領を踏まえた、特別支援学校、特別支援学級、通常の学級における連続した多様な学びの場における教育課程の円滑実施に向けた支援に関する研究」として、これまで研究所として取り組んできた教育課程研究を総合的にまとめる研究を進めます。

基幹研究（障害種別研究）

視覚障害を伴う重複障害の児童生徒等の指導に関する研究 －特別支援学校（視覚障害）における指導を中心に－

研究班： 視覚班

研究代表者： 金子 健

研究分担者： 土井 幸輝、澤田 真弓、西村 崇宏、大内 進

研究期間： 平成29～30年度

概要：

特別支援学校（視覚障害）の指導においては、視覚障害という観点から、視機能や触覚の機能のアセスメントに基づく視覚活用、触覚活用等が重要です。特別支援学校（視覚障害）における、これらの指導の現状と課題を明らかにするとともに、必要な指導内容や指導方法が特別支援学校（視覚障害）に対して提供される必要があります。こうした研究は、特別支援学校（視覚障害）に限らず、視覚障害を伴う重複障害児童生徒が在籍する他の障害種の特別支援学校に対しても、有用な知見を提供し得るものです。

このため、本研究では、視覚障害を伴う重複障害の幼児児童生徒の特別支援学校（視覚障害）における指導上の課題を、同校対象の全国調査等により把握した上で、適切な指導内容や指導方法等を示します。研究の成果は、指導内容や方法をまとめたリーフレットとして作成し、視覚障害を伴う重複障害のある児童生徒等に対する指導の改善・充実に寄与します。

精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的支援・配慮に関する研究

研究班： 病弱班

研究代表者： 深草 瑞世

研究分担者： 土屋 忠之（副代表）、新平 鎮博

研究期間： 平成29～30年度

概要：

病弱教育の対象となっている児童生徒の病類調査（病弱虚弱教育研究連盟と研究所の共同調査）によると、現在、最も多いのが、精神疾患（発達障害の二次的障害を含む）と心身症です。専門性の高い特別支援学校（病弱）に多くの児童生徒が在籍していますが、疾患の特徴として、個別性が高く、病弱教育の中でも重要かつ教員の専門性や経験が求められます。地域によっては、児童生徒の在籍が少ないために十分な知見がないことも課題と考えられており、具体的な支援・配慮に関する情報やガイドが現場から求められています。

現時点では、精神疾患及び心身症は病弱教育（特別支援教育）の対象ではありますが、今後、インクルーシブ教育システム構築をしていく為には、実態を踏まえて、多様な学びの場における、教育的なニーズに合わせた配慮や指導等の情報提供が必要です。それに資する研究として、特別支援学校における専門的な教育的ニーズと支援、配慮に関する分析、実践例の集約を行い、教育現場における研究成果の活用を目指します。

今回の基幹研究では、既に予備的研究にて検討を行った「教育的ニーズ」に対する具体的な支援・配慮例を専門性の高い特別支援学校教員の実践より集約、分析し、学校現場で有効に活用できるものとして示します。研究成果は、特別支援学校の充実だけでなく、小・中学校、高等学校における通常の学級や通級による指導、特別支援学級の指導・支援にも有用に役立つと考えます。

特別支援学校（知的障害）に在籍する自閉症のある幼児児童生徒の実態の把握と指導に関する研究－目標のつながりを重視した指導の検討－

研究班： 自閉症班
研究代表者： 柳澤 亜希子
研究分担者： 村井 敬太郎（副代表）、李 熙馥、棟方 哲弥
研究期間： 平成28～29年度

概要：

平成13年に「21世紀の特殊教育の在り方について：一人一人のニーズに応じた特別な支援の在り方について（最終報告）」が示されて以降、文部科学省の指定校等をはじめとする特別支援学校（知的障害）では、自閉症の特性に対応した教育が検討、実践されてきました。また、この間、自閉症のある幼児児童生徒の在籍数の増加が指摘されていますが、平成16年に当研究所で実施して以降、実態把握に関する調査は行われておらず、正確な情報が得られていません。このため、本研究では、特別支援学校（知的障害）に在籍する自閉症のある幼児児童生徒の実態（在籍状況や知的障害の程度）を把握するとともに、自閉症教育の取組状況とその成果及び課題を明らかにすることを第1の目的とします。

また、指導に関わっては、学習の定着や般化が難しい自閉症のある幼児児童生徒においては、単発的な指導や指導の意図が不明確であると学びの定着に結びつきにくいいため、明確な目標を見据えて指導を積み上げていくことが重要です。そこで、本研究では、研究協力機関での実践を通して、教師が個別の教育支援計画や個別の指導計画、日々の指導等の目標のつながりをどのように意識して設定（または見直し）をしているのか、目標設定における教師の視点や意図を明らかにすることを第2の目的とします。

以上を踏まえて、本研究では、特別支援学校（知的障害）のセンター的機能の役割として、特別支援学級等その他の学びの場に発信すべき自閉症教育の専門性について考察します。

発達障害等のある生徒の実態に応じた高等学校における通級による指導の在り方に関する研究－導入段階における課題の検討－

研究班： 発達・情緒班
研究代表者： 笹森 洋樹
研究分担者： 伊藤 由美（副代表）、若林 上総、江田 良市、海津 亜希子、横山 貢一、玉木 宗久、竹村 洋子、渥美 義賢
研究期間： 平成28～29年度

概要：

平成30年度より、高等学校にも発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への支援の場として、通級による指導の制度が運用開始となります。高等学校において初めて障害のある生徒に対する特別の指導が認められることになり、それは高等学校における特別支援教育の推進に関する喫緊の課題です。

本研究では、高等学校において通級による指導を導入するに当たり、通級による指導の役割、地域における導入の工夫、校内における活用の工夫等の体制整備について検討するとともに、発達障害等の特別な支援を必要とする生徒の実態や障害の特性に応じた自立活動等の指導内容・指導方法等の在り方について検討します。研究成果は、高等学校における通級による指導の在り方についての指針を示すものとなるよう、高等学校の実態に応じた通級による指導の導入や運用の工夫及び、通級による指導で取り上げるべき自立活動の内容・方法等についてまとめ、都道府県等教育委員会及び高等学校への普及を図ります。本研究において高等学校段階における発達障害等のある生徒の自立活動の内容・方法等について検討することは、高等学校における合理的配慮についての知見を提供し、インクルーシブ教育システムの構築・充実に寄与するものになると考えています。

地域実践研究

地域実践研究は、平成28年度より開始した新しい体系の研究です。地域や学校が直面する課題について、その解決を図るための実践的な研究を都道府県・指定都市教育委員会から派遣された地域実践研究員と共に地域と協働して推進します。

平成29年度に実施する地域実践研究の概要は以下のとおりです。

なお、各地域実践研究テーマの詳細には、P27.「地域実践研究」をご覧ください。

平成29年度 研究テーマ一覧（地域実践研究）

メインテーマ1：インクルーシブ教育システムの構築に向けた体制整備に関する研究

サブテーマ	研究班	研究代表者	研究期間
地域におけるインクルーシブ教育システム構築に関する研究	地域システム班	牧野 泰美	平成28～29年度
インクルーシブ教育システム構築に向けた研修に関する研究	研修班	久保山茂樹	平成28～29年度

メインテーマ2：インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育に関する実際研究

サブテーマ	研究班	研究代表者	研究期間
交流及び共同学習の推進に関する研究	交流及び共同学習班	定岡 孝治	平成28～29年度
教材教具の活用と評価に関する研究	教材教具班	新谷 洋介	平成28～29年度



平成29年度の地域実践研究員



地域実践研究事業合同会議の様子

共同研究

平成29年度に実施する共同研究の概要は以下のとおりです。

平成29年度 研究課題一覧（共同研究）

研究課題名	共同研究機関	研究代表者	研究期間
インクルーシブ教育場面における知的障害児の指導内容・方法の国際比較ーフィンランド、スウェーデンと日本の比較からー	高知大学 津田塾大学	明官 茂	平成28～29年度

インクルーシブ教育場面における知的障害児の指導内容・方法の国際比較ーフィンランド、スウェーデンと日本の比較からー

共同研究機関： 高知大学、津田塾大学

研究代表者： 明官 茂

研究分担者： 涌井 恵（副代表）、武富 博文、横尾 俊、清水 潤、松井 優子、神山 努、半田 健、福本 徹

研究期間： 平成28～29年度

概要：

インクルーシブ教育システムの構築が昨今の教育における喫緊の課題となっていますが、障害のある子どもとない子どもが共に学ぶインクルーシブ教育場面における指導方法については、まだ効果的な指導技法や集団編成に関する知見が不足しています。

そこで、本研究では、障害児・者に関する教育や福祉分野の先進国である北欧諸国（スウェーデンとフィンランド）と日本の国際比較から、効果的な指導方法等について探っていくことを目的としています。

研究方法としては、北欧諸国の小中学校の訪問調査や教員等へのインタビュー調査を行い、質的な分析を行います。各国の教育システムや文化的背景などの要因も加味しながら分析を行い、通常の学級で学ぶ際の効果的な指導内容や方法の具体についてまとめます。これらの資料は、日本における知的障害のある児童の交流及び共同学習の実践を深化させるために、学校現場の教員にとって有用な資料になると考えられます。

詳しくはこちら→

NISE WEBサイト > 研究紹介

<http://www.nise.go.jp/sc/kenkyu/>

外部資金研究

平成29年度に科研費により実施する研究の概要は以下のとおりです。

平成29年度 科研費による研究課題一覧

研究種目	研究課題名	研究代表者	研究期間
基盤研究(A)	通常学級における子ども・教師の多様性を包含する多層指導モデル実現への地域協働支援	海津亜希子	平成29～31年度
基盤研究(B)	多層指導モデルによる学習困難への地域ワイドな予防的支援に関する汎用性と効果持続性	海津亜希子	平成25～29年度
	アクセシブルデザインの理念に基づく晴盲共用の触知シンボルの形状とサイズの解明	土井 幸輝	平成27～29年度
	通常学級における協同的でユニバーサルデザインな授業実践の開発	涌井 恵	平成27～30年度
基盤研究(C)	メンター機能を活用した自閉症幼児の家族への早期支援プログラムの開発と効果評価	柳澤亜希子	平成28～31年度
	吃音のある子どものレジリエンスの向上に関する教育支援プログラムの開発	牧野 泰美	平成28～30年度
	インクルーシブ教育システムにおける合意形成のプロセスに関する研究	横尾 俊	平成28～30年度
	インクルーシブ教育システムにおける中学校の通級の在り方に関する研究	笹森 洋樹	平成28～30年度
	学習支援に活用できる実行機能評定尺度の開発	玉木 宗久	平成26～29年度
	スクールクラスターの構築に向けた特別支援学校の学校間マネジメントに関する研究	小澤 至賢	平成26～29年度
	介入整合性を指標とした特別支援教育コーディネーターの機能向上に関する実証的検討	若林 上総	平成29～31年度
	特別な配慮を要する子どもに対する社会の情報化に対応した消費者教育教材の開発と検証	新谷 洋介	平成29～31年度
	通常学級担任教師と他者との連携に関する研究：特別支援教育連携尺度の開発	竹村 洋子	平成29～31年度
挑戦的萌芽研究	UV点字既存製法に代わる新規法提案と点字初心者用の触読し易いUV点字サイズの解明	土井 幸輝	平成27～29年度
若手研究(B)	共に学ぶ場における発達障害児と典型発達児の他者・自己理解を促進する心理教育的支援	李 熙馥	平成28～31年度
	自閉症児童の社会的スキルの般化・維持に対するセルフモニタリングの効果と変数の検討	半田 健	平成28～30年度

受託研究

平成29年度に実施する受託研究の概要は以下のとおりです。

平成29年度 研究課題一覧（受託研究）

研究課題名	委託機関	研究代表者	研究期間
盲ろう幼児児童生徒の支援体制整備に係る開発的研究 -盲ろう担当教員等研修会-	一般財団法人 柳井正財団	星 祐子	平成28～29年度

盲ろう幼児児童生徒の支援体制整備に係る開発的研究 -盲ろう担当教員等研修会-

委託機関： 一般財団法人柳井正財団

研究代表者： 星 祐子

研究期間： 平成28～29年度

概要：

視覚と聴覚の両方に障害のある「盲ろう」障害の発生頻度は低く、その状態像は多様であり、かつ全国に点在しています。そして、盲ろう幼児児童生徒を担当する教員は、盲ろう障害を起因とするコミュニケーションと情報障害に配慮した関わりをはじめとした高い専門性が求められています。そのため、盲ろう担当教員の研修については、国レベルでの研修システムが必要であり、そのニーズは日常的な問い合わせや盲ろうの子どもたちの家族の会の要望等から極めて高いと予測されます。

そこで、本研究では、盲ろう幼児児童生徒の日常の療育・教育に関わる教職員等を対象とした研修（来所型研修、訪問型研修）やセミナー等を実施し、教育実践の質の向上を図るとともに、盲ろう幼児児童生徒の包括的な支援プログラムの実践的検討を行うことを目的としています。稀少性と多様性、点在性ゆえに支援体制が整備されていない盲ろう幼児児童生徒の支援体制構築に寄与するものと考えます。

研究成果の還元

研究成果については、特別支援教育に関する国の政策立案・施策推進等に寄与するよう国に提供するとともに、都道府県・指定都市教育委員会や特別支援教育センター・学校等はもとより広く一般にも公開します。

また、研究成果報告書のほか、サマリー集やリーフレット、指導資料集、実践事例集、各種ガイドブック等を作成し、研究成果の効果的な還元を図っています。

研究所セミナーでの成果報告、地域における研究成果報告会の開催、研究所が実施する研修事業での報告、本研究所WEBサイトへの掲載など、様々な機会や情報ツールを活用して、研究成果を発信します。

詳しくはこちら→

NISE WEBサイト > 研究紹介

<http://www.nise.go.jp/sc/kenkyu/>